

徳島の“熱い”夏

コロナ禍で3回目の夏を迎えました。第7波の爆発的な感染拡大もあり、猛暑の下でマスク生活を強いられ誰も息苦しい夏を過ごしました。しかしそのような中で徳島県民の心をワクワクさせてくれるできごともありました。

7月から8月にかけて四国4県を舞台に開催された全国高校総合体育大会(インターハイ)では、総合開会式をはじめ陸上競技、サッカーなどの6競技が徳島県内で開催され連日熱戦が繰り広げられました。中でも陸上男子三段跳びで富岡東高校・吉田康晟選手が見事優勝、女子砲丸投げでは生光学園・川口由真選手が準優勝し、われわれに熱い感動をくれました。また選手たちだけではなく、裏方として大会の運営を支えた数多くのボランティアの高校生にも心から拍手を送りたいと思います。

8月12日～15日には徳島市の阿波おどりが開催されました。3年ぶりに屋外の観客の前で本格的に開催された阿波おどりであり、3年間待ちわびた「踊る阿呆」の弾けるような笑顔と汗に「見る阿呆」の心も踊りました。ただコロナ禍での連員確保や有料観覧席で目立った空席問題、またおどり期間中の感染対策のあり方など、ウィズコロナ時代の課題も見えた阿波おどりでした。

さらに徳島県民の心に熱い刺激をくれたのが、「神山まるごと高専」の開校認可と、「徳島ガンバロウズ」構想の始動です。

神山まるごと高専は、「コトを起こす人を育てる」という全く新しい発想に基づく私立高専であり、設立にあたり阿波銀行も地元企業の一つとして協力をしています。生徒の学費無償化を実現するための新しい枠組み作りも進めており、その動向は日本中から注目されています。来年4月の開校をめざし、校舎の建設や生徒の募集など準備が急ピッチで進んでいます。

「徳島ガンバロウズ」構想は、徳島を地元とするプロバスケットボールチームをつくり、国内最高峰のB1リーグに挑戦しようとするものです。まずは2023年度シーズンにB3リーグに参入することを目指しています。香川県と愛媛県にはすでにB2チームがあり、徳島もプロリーグに参入することで四国の活性化につながれば素晴らしいと思います。今後県民が一丸となって応援していきたいものです。

「神山まるごと高専」と「徳島ガンバロウズ」については、本号にレポートを掲載していますので、どうかご一読ください。